

令和3年度「志教育」実践事例

本校は、「敬愛と強調心の育成」「学力の充実と探求心の育成」「公正な判断力と進取の精神の育成」を教育方針とし、スローガンとして「自由と創造」を掲げています。令和元年度から、文部科学省「地域との協働による教育改革推進事業」の指定を受け、石巻専修大学を中心としたコンソーシアムで地域協働による活動を行い、持続可能な社会のつくり手として必要となる人材の育成を協働でめざしてきました。また、以前から国際理解教育や防災教育に関わる行事を設けて、石巻地域に根ざした教育活動を積極的に展開することで、新しい社会や未来を創造する人材の育成に取り組んでいます。

●防災体験学習

【かかわる】：グループワークで意見交換をしながら考えをまとめていく。

【もとめる】：救急法など、災害時に役立つ技術を学び、地域社会に貢献できる姿勢を醸成する。

【はたす】：災害についての正しい知識と、向き合う心を養い、未来を生きる力につなげる。

◆1年生…状況に応じて身近にあるものをどのように活用したら災害に対応できるかをゲームを通して学びました。また、AEDを使った心肺蘇生法を体験しました。防災カレンダーに掲載する標語をクラス毎に決めたり、防災講話を通して命を守ることの大切さを再認識することができました。

◆2年生…避難所を設営する際の留意点についてゲームを通して学びました。防災カレンダーに掲載する標語をクラス毎に決めたり、防災講話を通して命を守ることの大切さを再認識することができました。

◆3年生…各クラスの防災共働員が考案した防災クイズから、様々な災害に対してどう行動すれば良いか学びました。また、防災講話を通して命を守ることの大切さを再認識することができました。

●地域貢献活動

【かかわる】：小学生や地域とコミュニケーションをとり、社会性を養う。

【もとめる】：さまざまな活動をする中でやりがいを感じ、自分の進路意識向上へつなげる。

【はたす】：活動による成果を感じることで、自分の役割達成を実感する。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、例年通りの活動が難しかったものも多々ありましたが、生徒会や部活動、有志生徒などによる活動が様々な場面で行われました。

◆募金活動（生徒会）

今年度の西翔祭での収益金 18,102 円を、令和3年12月に歳末たすけあい募金として東松島市社会福祉協議会に届けました。また、令和4年1月に発生した「トンガ大洋州噴火津波」に対する災害義援金を集めることを目的として、1月下旬から2月上旬にかけて募金活動を行いました。なお、この度本校生徒会は、多年にわたる募金活動の継続により地域福祉の充実・発展に寄与したとして、令和3年度東松島市社会福祉功労者表彰を受賞しました。

◆石巻支援学校交流演奏会（吹奏楽部）

毎年恒例となった本校吹奏楽部による交流演奏会。今年度は感染症対策として例年の訪問演奏ではなく、演奏動画を校内で収録し石巻支援学校へ届ける形となりました。約30分の動画の中には「宝島」等4曲の演奏や楽器紹介が盛り込まれ、8月31日に高等部の生徒の皆さんに視聴いただきました。

◆西高維新の会（生徒会）

生徒会執行部の主催により、今年度初めて取り組みました。服装の規程や西高生の身だしなみなど、生徒たちが考える西高の課題について、学校評議員の方々、PTAの方々や地域の中学校の先生方をお招きして、複数の視点から意見を出して話し合いました。



●国際理解講演会

【かかわる】:海外の方や、国際協力活動を行っている方をお招きし、貴重な経験を直接聞く。

【もとめる】:講演内容から、国際社会における自己の役割を考える。

◆7月6日(火)テーマ「難民支援」

ジューイオンモール石巻店店長の佐藤慎一氏を講師に招き、世界中の難民の実情をお話しいただくと共に、ユニクロとジューイオンが取り組む子ども服回収事業を紹介し、着る服がなくて困っている難民支援の呼びかけを実施しました。その後、本校の国際交流委員会が中心になり子ども服回収を保護者に呼びかけ、最終的には段ボール箱 6 個分、約 450 着の子ども服が集まりました。

◆11月16日(火)テーマ「宮城・石巻における多文化共生」

独立行政法人国際協力機構東北センターより佐藤智子氏を講師に招き、少子高齢化に伴い生活や経済の担い手が減少傾向にある状況の中でいかに地域社会が外国人人材の受け入れを捉えるかという課題に向き合う機会を得ました。様々な視点から石巻の将来を考え、広い視野と新しいグローバルシチズンシップを身につける機会となりました。

●課題研究

【かかわる】:地域や社会においてコミュニケーションをとり、社会性を養う。

【もとめる】:自分の興味のある学問分野について、自ら課題を設定し、探究活動を行う中で進路意識の向上と学問を追求する姿勢を養う。

◆街ライブラリー(1 学年)

地域の社会人 30 名を講師として招き、会場(講堂)を地域のことが何でも分かる図書館として捉え、1 名の講師を 5 名程度の生徒が囲み話を聞きました。講師の方がこれまでの経験を語り、高校生にとっても身近に語りかけてくれるイベントで、成功体験だけではなく、挫折経験や高校時代のエピソードなども話していただきました。聞く力や聞き出す力を養いました。

◆街ミッション(1 学年)

街ライブラリーで交流のあった事業所等に全員が 3 日間お世話になり、職業体験をしました。訪問先からは課題を与えていただき、その解決策を生徒たちが考え、プレゼンするスタイルからいわゆるインターンシップとは一線を画す企画です。対話力を鍛えながら仲間と協働で解決策を探り、提案するプロセスをとおして他者との関わりや協働の重要性を身に付けます。

◆街クエスト I・II(2 学年)

自分の興味や関心を生かした地域でのフィールドワークを夏休み中に実施しました。地域の魅力を再発見した生徒たちもいたようです。その後はさらにテーマを深掘りし、新たな問いを立てて 12 月に 2 度目のフィールドワークを実施しました。発表会を地域の方々にも見ていただき、今後に向けて探究のプロセスを確認することができました。

◆課題研究(3 学年)

自分たちの身近な地域の状況はどうなっているのか、自分は地域で何ができるか、何がしたいかなど、探究に必要な視点を磨くために地域の方々と対話を重ね、各自がそれぞれフィールドワークを実施し、課題研究に挑みました。発表会には 1, 2 年生も参加し、自分たちの探究活動を振り返る機会となりました。

◆生徒探究活動発表会(全学年)

各学年から代表が選ばれ、総勢 7 組がオンラインで成果発表を実施しました。特に 3 学年の発表は説得力があり、それを支える根拠や資料の提示の仕方などが洗練され、圧巻のパフォーマンスを見せつけてくれました。探究と自分の生き方や進路がリンクした発表を聞いた下級生の探究心を大いに刺激する内容となりました。